

語りかけるように隣で、「だるまさんが」と読むと、体の動きを止めて真剣に聴いている様子がありません。間を空けページをめくり「どてつ」と読むと、弾けるような笑顔が見られました。再び「だるまさんが」と読み出すと動きを止めて聞いています。次にくる言葉をワクワクして待っているところで、「どてつ」ときた時の嬉しさ・楽しさが感じられました。



Bさん(横地分類B3)は、「おはようございます」「い馳走様でした」などのあいさつことばを言います。しかし職員がゆつくりと「お・は・よ・う」と言うと、職員の口元を見ながら一緒に「おはよう」「お」だけ言って「はよう」の言葉は首でうなづく様にリズムを取り

ます。このような時は言葉のリズムを楽しんでいるのだと思います。

活動では、絵本を使い語りかけのリズムを感じられるように「大きなかぶ」を読みました。「大きなかぶを読みますか?」と聞くと嬉しそうに、離れたところからでも近づいてきます。「おじいさんがおばあさんを呼んで来て:」と、人が徐々に増えていく場面では、絵本をのぞき込むようにウンウンと頷きながら聞いています。かぶをひっぱる場面になると、「うんとこしょ・どっこいしょ」のはじめの言葉を合わせるように、力強く「う・ど」と言い笑顔になります。絵本の中で言葉のリズムを楽しんでいました。

**うららの  
日常生活紹介**  
江間 麻衣

うららは、利用者17名(横地分類A1-Cが3名、A4が6名、A5が2名、A6が1名、B4が2名、B5が2名、C4が1名)が生活しているゾーンです。利用者ひとりひとりの生活が充実したものとなるような活動の提供を心がけています。

Aさん(横地分類A6)は日



常の中で鼻唄を歌いながら歩いたり、手拍子を打ったりすることで、体でリズムを感じ楽しんで様子があります。活動では、絵本『だるまさんが』に出てくる「だるまさんが:にこつ」というフレーズからリズムを感じて楽しめるのではないかと考え提供しました。絵本を語りかけると普段は動かしている手を止めて、職員の色や絵本を気にする様子が見られはじめ、語りかけに耳を傾けているようでした。だんだんと膝を擦ったり足を揺らしたりするようになり、語りに合わせて体でリズムを取っているようでした。絵本を読み終える頃には目元や口元が緩んできました。言葉のリズムを楽しんだようでした。少し間をあけてから、もう一度語りかけようと絵本を見せると、

Bさん(横地分類A4)は、カードを並べたり、重ねたり、混ぜたりする動きを楽しめる活動を提供しています。テーブルにカードを並べていくと、その動きに合わせて顔を左右に動かしながら目で追っています。全て並べ終えたと職員の色を見て、次に起こることを待っているかのようにカードをかき混ぜるように動かすと体を前傾させ、動くカードと一緒に目線を動かして、だんだんと楽しそうな表情になりました。カードを裏返していくと、その動きもよく見



一旦動きが止まり絵本に注目する様子がみられました。もつと聞きたいという気持ちの高まりを感じました。語りかけはじけると、最初から良い表情で聞いていました。

ていました。裏返る手前でカードを止めて少し戻したり返したりすると、真剣な表情でのぞき込み、カードの動きにひきつけられるように見えていました。最後に完全に裏返ると声をあげて笑いました。じつと見ていたときの緊張感がとけた笑顔だと感じました。集中して楽しめるよい時間となりました。

**「ボランティアの会」  
緑綬褒章受章**

聖隷三方原病院のボランティアの会が、長年による社会奉仕活動の功績により、緑綬褒章を受章しました。

ボランティアの会は昭和55年7月に団体として設立以降、当院の支えとなり尽力されています。聖隷おおぞら療育センターでも、利用者さんの衣類の名札付け等縫製をいただいております。今後ともよろしくお願ひします。

